

<企画2>

セミナー「東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと」

グローバル文化学環「地域研究実習III」による陸前高田市派遣学生の報告

開会の言葉・主旨説明

小林 誠
(グローバル文化学環教授)

報告① 「陸前高田市被災地状況概況」

安念 美智子	グロ文3年
切山 薫子	グロ文3年
中里 光穂	グロ文3年

報告② 「私たちが出会った陸前高田市の復興支援に関わる様々なアクター」

佐久間 志帆	グロ文2年
古橋 まどか	グロ文3年
堀川 尚美	グロ文2年

報告③ 「米崎小学校仮設住宅、集会所の状況、コミュニティ・カフェ運営状況」

武田 真佑子	グロ文2年
中村 千鶴	グロ文3年
船渡 恵	英語圏言語文化コース3年

報告④ 「人口流出と雇用創出」

植村 奏水	グロ文3年
山口 彩	グロ文3年
松田 彩奈	グロ文3年

報告⑤ 「わたしたちの復興計画」

土屋 真美	グロ文2年
山下 佳乃	グロ文2年
勝島 春奈	グロ文4年



国際ジョイントセミナー
 東日本大震災の復興と私たち
 ～ローカル／グローバルに考える～

〈企画2：セミナー〉
 東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと

1、陸前高田市被災状況

2012年3月15日 共通2号館102号室
 グローバル文化学環3年
 切山薫子、安念美智子、中里光穂

陸前高田市被災状況
 被災前（昭和57年10月撮影） 被災後（平成23年3月13日撮影）

国土交通省 国土地理院 <http://saigai.gsi.go.jp/h23taiheiyo-ok/hikaiku/rikuzentakata.pdf>

被災世帯戸数

区分	内容
総世帯数	8068世帯 平成23年1月31日現在
被災世帯数	3803世帯 平成23年6月21日現在
	大規模半壊 118世帯
	半壊 116世帯
	一部損傷 428世帯
計	2465世帯 半数以上の世帯が被災

人的被害

総人口	24,246人	平成23年3月11日現在
生存確認数	22,300人	平成23年10月6日現在
死亡者数(震災分)	1,597人	市民で身元が判明、または死亡届の出された人数
死亡者数(その他)	192人	病死、事故死など
行方不明者数	132人	安否確認要請のあった人数
確認調査中	25人	

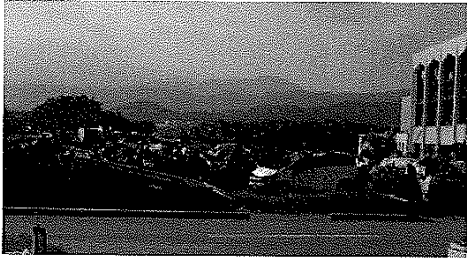
水産被害

	被害数	被害額
漁港施設		約89億円
水産施設(定置、ふ化場、アワビセンターなど)		約62億円
動力船	1,358隻	約64億円
養殖施設	3,340台	約21億円
水産物		約45億円

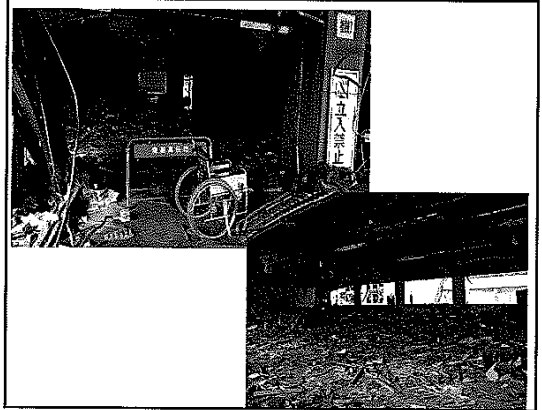
その他、農地は約77億円、商工関係は約156億円の被害

私たちの見た被災状況

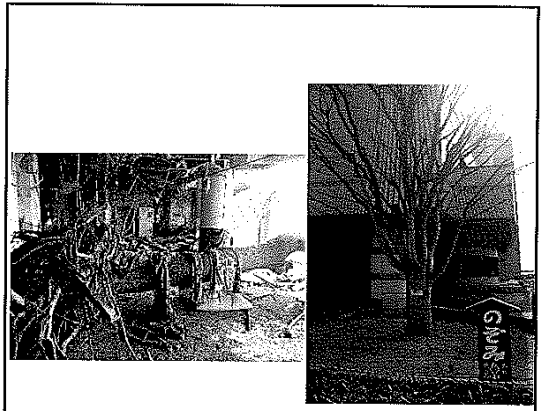
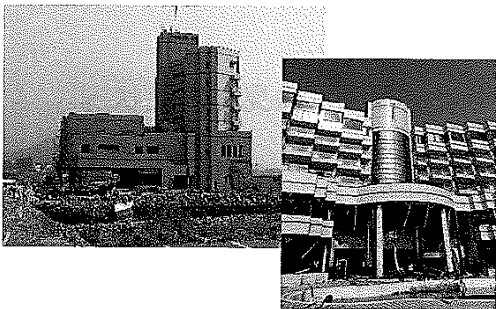
きゆう しあいち
旧市街地



しやくしよ
市役所



ホテル 千
ホテル 千



市民体育館
しゅん たいいくかん
びん

- ・市内の多くの人々が避難した場所
- ・生き残ったのはわずか数名



仮設住宅
かせつ じゅうたく

- ・市内には2197戸の仮設住宅がある
(2011年8月現在)



国際ジョイント・セミナー

「東日本大震災の復興と私たち—ローカル／グローバルを考える」
＜全回＞セミナー「東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと」
2012年3月15日 北進2号館102号室

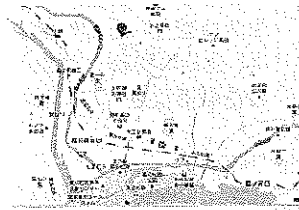
私たちが出会った 陸前高田市の 復興支援に関わる 様々なアクター

グローバル文化学館2年 佐久間志風
同4年 古畑まどか
同3年 尾川陽次

紹介するアクター

- ・ 陸前高田市役所
- ・ 米崎小学校
- ・ 市民グループ
桜ライン3、11
- ・ 難民支援協会
- ・ その他
- ・ 中小企業（中小企業同友会）
- ・ 普門寺

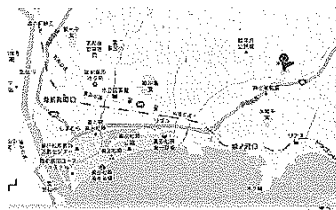
陸前高田市役所



陸前高田市役所

- ・ 震災直後の対応(被害状況の確認など)
- ・ 仮設住宅の手配
2年契約で2000戸＋商業施設、病院など
- ・ 復興計画の作成
- ・ 就職支援、産業復興
- ・ ボランティア、義援金の受け入れ窓口

米崎小学校



米崎小学校

- ・ 現状
中学校と共同の校舎
グラウンドに仮設住宅
子供・教師の心のケア
仮設住宅の人々と交流する努力
- ・ 震災直後
高台へ避難→生徒の引き渡し
体育館が避難所に
4月20日から授業開始

陸前高田市内で活動する 市民グループ

私たちが出会った市民グループ

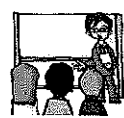
- ・桜ライン311
- ・陸前高田青年会
- ・難民支援協会
- ・光の実project
- ・一本松ライトアップ企画
- ・Save the children Japan
- ・Rody Yoga Associates
- ・ホンダ

桜ライン311

- ・ きっかけ「桜をうえたい」
- ・ 目的
- 3. 11を次の世代へ伝えること
「被災地」の風化への懸念
- ・ 活動
- 10mに一本、計17,000本の植樹
- 地元の植林専門家と勉強会
- 土地所有者との話し合い
- 11月6日現在)約46本

難民支援協会 (JAR)

- ・ きっかけ
- 支援している外国人居住者の声から
- ・ 法律からの支援
- 生活保護申し込みの相談
- 申し込みに関わる法律の説明
- 資格取得教室・日本語教室
- ・ 困難
- 外国人への差別 見落としてしまうコミュニティ

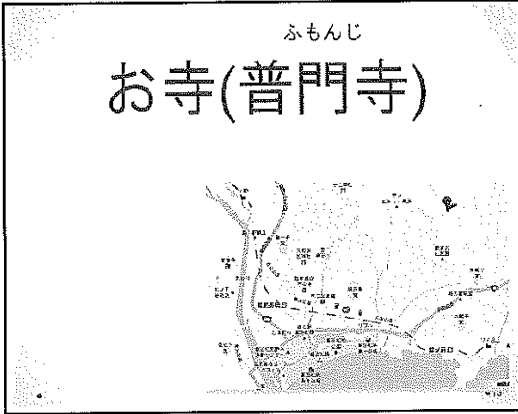


中小企業

中小企業—高田ドライビングス クール

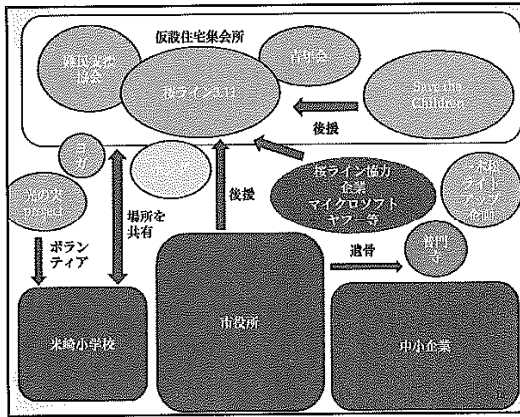
- ・ 田村社長—中小企業同友会
気仙地方代表理事

- 物資の分配
- 「解雇しない」ことの呼びかけ
- 復興計画への提案



普門寺と震災

- 遺骨を預かった — 当時最大300人分
— 2月時点
30人近く
- 「祈る」ことの意味
— 自分が祈ることで
次に進める人の存在



「東日本大震災の復興と私たち—ローカル/グローバルに考える」

〈企画2〉セミナー「東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと」
 日時：2012年3月15日
 場所：共通2号館102号室

旭城実習Ⅲ 2012/3/15

米崎仮設住宅・集会所・コミュニティカフェ運営状況

旭城実習Ⅲ 2012/3/15

米崎小学校仮設住宅に関して
 provisional housing of Yonesaki primary school

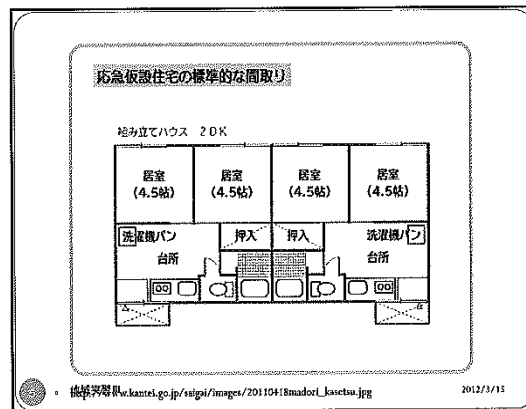
資料作成者：武田真佑子

旭城実習Ⅲ 2012/3/15

仮設住宅の基本設備(the most basic amenity)

- ◆室内 (room inside)
- 各部屋に設置
 ⇒風呂、トイレ、流し台、ガスコンロ、エアコンなど
- 間取り
 一人暮らし：4.5畳一部屋
 二～四人暮らし：4.5畳、六畳の二部屋
 五人以上：4.5畳二部屋、六畳一部屋の三部屋
- 暖房
 各世帯エアコン一台
 十二月以降、各世帯にファンヒーターが一台ずつ支給

旭城実習Ⅲ 2012/3/15



仮設住宅の基本設備(the most basic amenity)

- ◆ 外回り
 - 上下水道(water supply and sewerage systems)
- 市の上下水道にはつながっておらず、その予定もない井戸を掘り、貯水タンクで塩素殺菌(chlorine-disinfected well water)、ポンプアップして供給
- 住居環境
- 敷石が間に合わず、全面でなく通路にのみ敷石
- 建物外壁
- 昨年の夏の異常な暑さで、断熱材(insulated material)及び二重窓(double window)を追加
- 建物の八割程度の断熱材の高さ
- 冬になると天井から冷気

地域実習生

2012/3/15

問題点

- 洗濯機、炊飯器は世帯の人数に関係なく一律(supply clothes washer and rice cooker equally)
 - 雨が降ると建物の下に水たまる
 - 梅雨、夏は湿気が室内へ、冬は床下に氷
→床下の氷によって上下水道が凍ってしまう
 - 収納不足
 - 部屋の広さが足りない
⇒支給されたファンヒーターも火事が怖く使えない
- ▽仮設住宅に対して、住民の方全員が感謝している

地域実習生

2012/3/15

米崎小学校集会所について meeting house in Yonesaki primary school

作成者: 舩渡恵

地域実習生

2012/3/15

【集会所の概要】

- 仮設から徒歩約1分
- 広さ: 約13坪
- 玄関、水道、トイレが各1坪
- 使用可能なスペースは10坪(33㎡)
- 設立者の佐藤一男さん(上写真、左下)



地域実習生

2012/3/15

集会所建設の成り立ち

45世帯以上の仮設住宅には、一つの集会所の設立が条例で定められている。

佐藤一男さん(仮設住宅自治会長)が建設を岩手県に交渉。

学校を使うよう指示されるもの、不可能。

陸前高田市で活動していた、国際NGOのセーノザチルデンの協力のもと、集会所を設立。

地域実習生

2012/3/15

集会所と仮設住宅の位置関係(position relation)



地域実習生

2012/3/15



その他の集会所の使用例と問題点

- 他ボランティア団体の訪問、活動
(手芸教室開催etc…)
- 物資の一時保管場所
- 司法書士(judicial scrivener)等の方が来て
情報を告知

一方…

- 男性の訪問が少ない(仮設での留守番?)
- 当初に比べて人が集まりにくくなってきた

2012/3/15

米崎小学校仮設住宅居住者にとって
集会所とは…

情報交換
の場

支え合い
の場

様々な背景
を持った
人々の交流
の場

居住者の社会的
孤立を防ぐ場

コミュニティの中心
新しい「繋がり」の場 2012/3/15

コミュニティカフェ運営状況
community café ochakko

資料作成者：中村千鶴

地域実習Ⅲ 2012/3/15

コミュニティ・カフェの定義


1. 人と人が交差する自由な空間
2. あらゆる情報の交差点
3. 友達を作る（人的ネットワークを広げる）
4. もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけを持つ

<http://comisalo.com/> より抜粋

地域実習Ⅲ 2012/3/15

コミュニティ・カフェ「お茶っこ」

- 日時
 - ①2011年10月14日～17日
 - ②2011年12月23日～25日
 - ③2012年 2月 3日～ 5日
- 場所
米崎小学校仮設住宅集会所
- コーヒー豆などは、ワイルド珈琲（東京）より提供

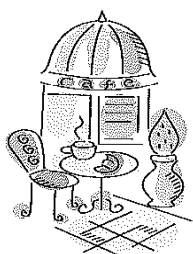


Ochonomizu University

地域実習Ⅲ 2012/3/15



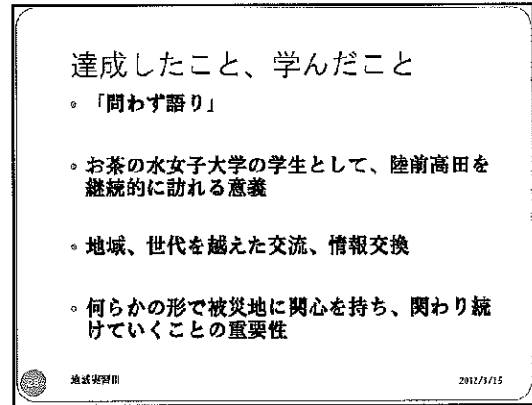
カフェ「お茶っこ」の目的



- ①国内外のNPOなどを含む、地域をこえ、地域をむすぶ復興支援のネットワークを学ぶ。
- ②仮設住宅（陸前高田市米崎小学校内）の住民の被災体験と復興への歩み、その課題を、コミュニティ・カフェの運営に参加しながら学ぶ。

地域実習Ⅲ 2012/3/15





人口流出と雇用創出

文教育学部 グローバル文化学環
植村奏水・山口彩・松田彩奈

国際ジョイント・セミナー
「東日本大震災の復興と私たち——ローカル／グローバルに考える」
〈企画2〉セミナー「東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと」
日時：2012年3月15日
場所：共通2号館102号室

震災前、震災後の 人口流出と高齢化(aging)

植村奏水

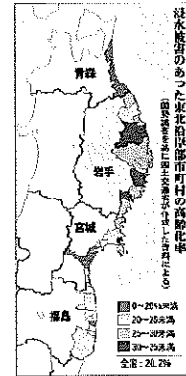
東北の人口減少と高齢化(震災前)①

- 岩手県や福島県では、1990年代後半には人口減少がはじまっている。
- 65歳以上の比率(ひつ)を示す高齢化率は全国平均で20%だが、陸前高田市では31%。



津波の被害にあった 地域の高齢化率

共同通信社
「[東日本大震災3カ月・高齢化、過疎化への対応]人口流出、加速の恐れ 集団移転に懸念の声」
(<http://www.kyodonews.jp/feature/news04/2011/06/post-3666.html>)



東北の人口減少と高齢化(震災前)②

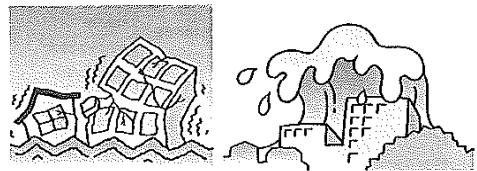
原因

- 第一次産業 (agriculture, forestry and fishery industry) に雇用がかたよっている。
 - 第三次産業 (service industry) は全国平均よりも大幅(おおはば)に遅(おく)れている。
 - 第一次産業以外のほとんどの産業において、就業機会(しゅうぎょうきかい)が全国平均よりも少ない。
- 仕事を求めて県外に出る労働力人口が増えたことで、総人口の減少が続いていた。



震災と津波の被害

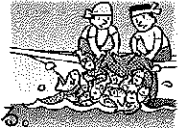
- 街と産業が破壊(はかい)される。
- 原子力発電所 (nuclear power plant) の事故による被害。



震災後の人口流出①

- 宮城県と岩手県の被災地では、仕事を求めて県外などに移り住む人が増えている。
- 震災前の去年3月からの人口減少の割合は、陸前高田市で13%。
- 原子力発電所の事故の影響が続く福島県では、県外に移り住んだ人が去年末までに5万3000人を超え、より深刻な事態になっている。

震災後の人口流出②



影響(えいきょう)

- 復興の担い手(にないて)が減る。
- 税金(tax revenue)の落ち込みによる財政(finance)の悪化で、自治体(autonomy)としての存続が危うくなる。

⇒雇用の創出(そうしゅつ)が緊急(きんきゅう)の課題となっている。

雇用問題に対する行政の取り組み

山口 彩

政府の取り組み

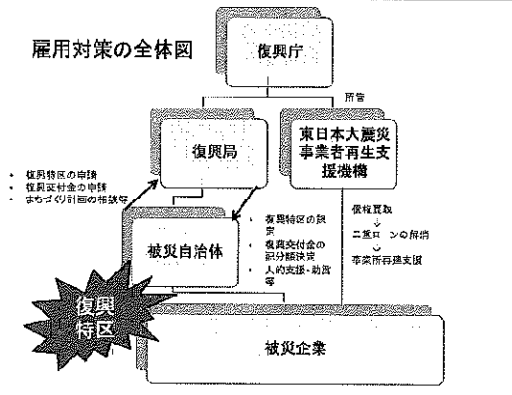
復興庁

復興特別区域(特区)法

- 被災した11道県222市町村が対象
- 新しく立地する企業の5年間の法人税免除
- 被災地の雇用確保に貢献する企業に、事業用設備の税額控除
- 市町村の費用負担がゼロの復興交付金

→津波被害にあった集落の高台移転事業や道路整備など国が指定する40事業、その関連事業に使える。

雇用対策の全体図



今までに申請された復興特区構想

- 「あおり生業づくり復興特区」
(青森県、八戸、三沢、おいらせ、階上)
- 「ふくしま産業復興投資促進特区」
(福島県内の全59市町村)
- 「保健・医療・福祉特区」
(岩手)

自治体の取り組み 岩手県の事例

雇用の創出

- より長期・安定的な雇用の創出
- 「つなぎ雇用」の創出

就業の支援

- 若者及び震災による離職者等の重点的なマッチング
- 職業訓練コース・人材育成事業の拡充
- 被災失業者等への相談・支援体制の拡充

自治体の取り組み 岩手県の事例

ものづくり産業の振興

食産業の振興

観光産業の振興

雇用に対する民間の取り組み

松田 彩奈

1,ワタミの陸前高田コールセンター

- 平成24年2月3日～
- 外食大手のワタミグループ
- コールセンターを設置
- これまで67人を雇用
→採用活動を継続し、100人まで拡大予定



<http://ga-watami.co.jp/2012/02/03/> (就職情報ページ)

ふっこうしえん こようそつしゆつ
「長期的な復興支援の観点から雇用創出が必要」(ワタミの渡辺美樹会長)



「陸前高田受付センター」で働く従業員と談笑するワタミの渡辺美樹会長＝1月25日、岩手県陸前高田

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/120206/bsd1202060959004-01.htm> (SankeiBiz)

2.公益財団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

- 国際協力NGO (Nippon International Cooperation for Community Development)
- 釜ヶ崎(かまがさき)市に完成したコンテナキッチン(コンテナキッチン)を拠点
- 仮設住宅(仮設住宅)・避難所へ温かい食事を提供

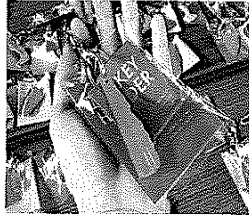
被災した地元調理師を雇用し、地元の味を提供



http://yokohama-nicco.org/japanese/activities/201202_03.html (よこはま国際民間協力会)

3,「瓦Re: KEYHOLDER (ガレキーホルダー)」

- 陸前高田の主婦の方と障がい者の方々を中心
- 売上げが作業をした人たちの収入につながる。
- 職人工房 株式会社
Hand Madeが協力



がれき
瓦様を使ったキーホルダー→

<http://11shokunin.com/keyholder/> (瓦Re:KEYHOLDER)



<http://11shokunin.com/keyholder/menu02/> (瓦Re:KEYHOLDERホームページ 制作風景)

4,日本マイクロソフトと「育て上げ」ネット が被災地の就労支援

- 日本マイクロソフト株式会社とNPO法人「育て上げ」ネット
- 被災地である東北三県(岩手、宮城および福島)の被災者を対象
- ICTスキル習得を通して就労機会の拡大を支援する「東北UPプロジェクト」を実施
(2012年1月～)

- 被災者が^{にぎわい}仕事情報へアクセス
- さまざまな仕事に必要な基本的なICTスキルを習得→就労機会の拡大・地域経済の活性化



<http://ascil.jp/elem/000/000/675/675250/> (ASCI.jp)


わたしたちの復興計画

グローバル文化学環4年 勝島春奈
同2年 土屋真美
同2年 山下佳乃

国際ジョイント・セミナー「東日本大震災の復興と私たち——ローカル/グローバルを考える」
<企画2>セミナー「東日本大震災の現場を見て、語り、感じたこと」
日時：2012年4月13日
場所：共通2号館102号室

《目次》

- ・ 陸前高田市（行政）の復興計画
- ・ 陸前高田市民が考える復興案
 1. 田村満氏(高田ドライビングスクール社長)
 2. 佐藤一男氏(米崎小学校仮設住宅集会所)
- ・ わたしたちが考える復興案
陸前高田を訪れたお茶大生が考える復興
- ・ おわりに



陸前高田市の復興計画

- ・ 目標：災害に強いまち
- ・ 高さ12.5mの防潮堤
- ・ メガソーラー
- ・ コミュニティを大事にした復興

陸前高田市民が考える復興案 その①高田ドライビングスクール田村満社長

- ・ 防潮堤はいらない
⇒環境・資金の問題、予想できない災害
- ・ 浸水した土地を国有の農地にする
⇒羊の飼育
- ・ 電力を自給できるまち
⇒雇用と環境

陸前高田市民が考える復興案 その②米崎小学校仮設住宅集会所 佐藤一男氏

- ・ 「災害は来るものだ、共存しよう」
- ・ 防潮堤、盛り土はいらない
⇒景観、住民の意識
- ・ 商業施設と住居の区分
- ・ 国道45号線の立地
⇒海から近すぎる、災害時の国道の重要性

わたしたちの復興計画

- ・ 防災・再生特区
—日本一の対災害の街に—
- ・ 農業と漁業の街
—外に閉かれたコミュニティを目指す—

陸前高田らしさと新しさを
バランスよく融合させたもの

「防災・再生特区」とは？

1. 再生に強いまち

地震で倒壊しても...

- 人への被害が最小限になるような建築
- 再建がかんたんにできる建築

2. 市民の防災意識

防災を「あたりまえ」に

- 企業、学校、地域で、防災について考える機会をつくる
- 定期的にイベントや講義を行う

例えば...

- 避難経路の標識設置を義務付ける
⇒ 普段の生活の中で確認できる



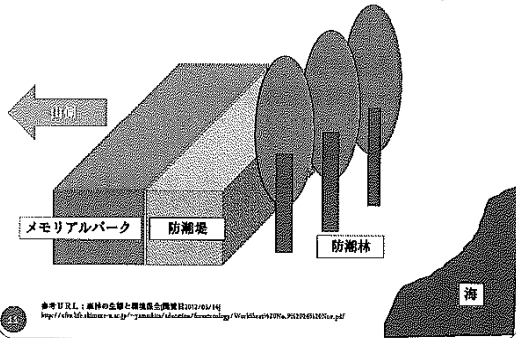
3. 津波と向き合うために

巨大な防潮堤だけで防ぐのではなく、

防潮堤 + 防潮林

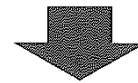
「完全に津波を防ぐ」から
「被害を最小限にする」への発想の転換

景観と防災を兼ねた防潮策の案



「農業と漁業の街」とは？

「ただの生産地」ではなく「来て、見て、食べて、体験できる場」としての陸前高田市



外に発信するコミュニティを目指す
自然と人間の生活とのつながりを感じる場所

《水産業の復興》

- 水産加工工場の復興
⇒来た人が見学しやすい工夫や、加工を体験できるコーナーを取り入れた設計
⇒震災前に加工業に従事していた人のスキルを生かせる、雇用の創出
- 生産現場(養殖場)をより見やすく

訪れた人が漁業をより身近に感じるために

12

《農業の復興》

- 津波の被害にあった土地を生かす
⇒塩分濃度が高いからこそ作れる作物
- 特産品の開発
- 新鮮な産物を扱うマーケットやレストラン
⇒市外の人にとっても魅力的なもの

13

陸前高田らしさを出すために

- 気仙建築の利用
⇒関係する施設に、伝統的な建築物である気仙建築をふんだんに用いる

……人々に「なつかしき」を感じさせる風景



14

この計画に学生が関わるには？

- 陸前高田を「訪れる側」としての意見を出す
⇒外のニーズを把握することも重要
- 陸前高田の魅力、存在そのものを発信
⇒広報活動

15

「復興」とは何かを考えてみて...

もとの通りにもどすのが「復興」ではない

この震災で失ったものはあまりに多いけれど

得たものを生かし、次の世代に残すべきものを残す
これが「復興」なのではないだろうか

16



母親の車が発見される。この一週間後、ようやく9キロ離れた瓦礫の下から発見された母親と対面した。
安田菜津紀氏撮影